

2020年度 活動計画



全体作業の案内

2020年度の年間活動計画をお知らせします。

今年度も全体作業は年5回を予定しています。全体作業日は湿原の維持管理作業を一斉に行います。湿原の保全は人の手に頼らざるを得ません。一人でも多くの会員の参加をお願いします。

入笠湿原の今日の姿は自然を上手に、地道に維持管理して得られた貴重な景観遺産です。その景観を維持するのは会員一人一人の人の手です。

またこの山岳遺産を次世代につないでいくために、地元の青少年との共同作業も行います。次世代の若者たちに入笠山の自然を守る精神を伝えていきたいと思ひます。

- ・全体作業を年5回行います。
 - ・昼食は各回の案内をご覧ください。お茶の用意はいたします。
 - ・10月25日(日)の全体作業後に反省会を行います。(昼食は事務局で用意します)
- ※各回とも作業時間は9:30～12:00ごろを予定しています。
集合場所は山彦荘前です。



2020年度活動計画	
4月19日(日) 第1回 春の全体作業 (杭打ち、ロープ張り、枯枝枯木除去) 弁当を持参下さい	
5月24日(日) 第2回 春の全体作業 (帰化植物除草) 椎茸の駒打ち体験会(材料に限りあるため子供優先)。 富士見地区の子供たちも参加します。 昼食(カレーライスを用意します)	
7月19日(日) 第3回 夏の全体作業 (帰化植物除草) 富士見地区の子供たちも参加します。 昼食(カレーライスを用意します)	
9月6日(日) 第4回 秋の植生調査と全体作業 (帰化植物除草とゴミ拾い) 弁当を持参下さい	
10月25日(日) 第5回 秋の全体作業 (湿原整備、片づけ) 作業終了後反省会を行います。 昼食は事務局で用意します 2020年度総会(山彦荘にて)	

2019年度活動報告

2019年度は5回の全体作業を計画しましたが、第1回の作業は遅い雪のため有志だけの作業になりました。

《4月21、28日》第1回 残雪が多いため全体作業は中止しました。役員ほか一部有志の方で4/21、4/28に作業を実施しました。(参加:4/21 4人、4/28 7人)

《6月2日》第2回 春の全体作業。富士見地区のスポーツ少年団も参加しての作業。(参加:44人 スキースポーツ少年団32人)

《7月21日》第3回 夏の全体作業。帰化植物の除去など行いました。野鳥の生態についての講演会を行いました。(参加:40人 スキースポーツ少年団17人)

《8月1日》サマーチャレンジ(富士見社協主催・ボランティア体験活動 (参加:15人)



《9月7日》入笠山登山道迂回コースの整備(参加:5人)

《9月8日》第4回 秋の全体作業 帰化植物除去、ゴミ拾い、登山道整備。(参加:39人)

《10月27日》第5回 秋の全体作業。湿原整備、枯木枯枝除去とズミの剪定。作業後反省会を行いました。(参加:43人) 2019年度総会を開催しました。

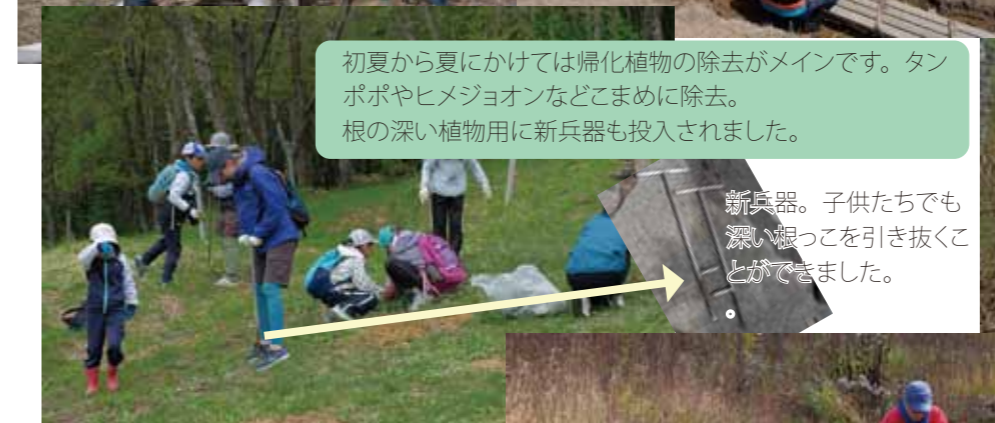
湿原の保全は会員の手作業 で維持されています



入笠湿原は会員一人一人の手作業で守られています。年5回の全体作業では一斉に保全作業が進められます。実際の作業の様子を紹介しましょう。



春の作業のメインは湿原の整備。規制ロープの杭打ちや歩道の整備です。19年の春には沢入り登山口への木道を設置しました。



初夏から夏にかけては帰化植物の除去がメインです。タンポポやヒメジョオンなどこまめに除去。根の深い植物用に新兵器も投入されました。

新兵器。子供たちでも深い根っこを引き抜くことができました。



秋の作業はズミ林の剪定や間伐と草原の枯れ草・枯れ枝などの除去。大きな集草バッグで何度も運んで処理します。来春の芽吹きと開花が楽しみです。



入笠山頂迂回路の整備も行いました。

19年6月の作業では水路の改修を行いました。乾燥気味の湿原へ水路を増やしました。



入笠山を彩る花たち

第2回 ヤナギラン 佐藤元昭

ヤナギラン (アカバナ科 ヤナギラン属)

我が入笠山周辺では、アオチドリ、テガタチドリ、カマナシホテイアツモリソウ、キバナアツモリソウ、クマガイソウ等多くの「ラン科」植物を見ることが出来る。しかし『〇〇ラン』と呼ばれているラン科植物はササバギンラン程度であり、非常に少ない。一方「ラン科」ではないのに「〇〇ラン」と呼ばれている植物は沢山ある。

わが国には昔から、綺麗な花や細長い葉をもつ植物に対し、親しみと敬意を込めて「〇〇ラン」と呼ぶ習慣がある。ラン科ではない「〇〇ラン」と呼ばれている

植物は、入笠山のスズランが特に有名だが、今回のヤナギランもその代表格であろう。身近な例では、クンシラン、リュウゼツラン、オリヅルラン、ヤブラン等々枚挙にいとまがない。蛇足だが、観察会で植物名を聞かれた時に、調子に乗って「知ラン」「分かラン」と答えると「つまラン」「くだラン」と返されることがある。

さて、今回のヤナギランだが、入笠山の他にも霧ヶ峰、蓼科山、尾瀬沼、武尊山等々中部以北の各地にその「名所」があり、この花に会うためにわざわざ山に出かけるファンも大勢いる。

花が美しく、ヤナギに似た葉を付けることから「ヤナギラン」と名付けられたが、アカバナ科の植物で、ア

カバナ、タニタデ、マツヨイグサ等の仲間でもある。夏山シーズンも最盛期を過ぎる頃、山地から亜高山帯の日当たりの良い場所で、4枚弁の赤桃色の花穂を天に突き上げている群落に出会うことが多い。可愛いので自宅でも育てたいと思ひ、靴の中の子を綿毛ごと載せてきて直播すると、晩秋には発芽するのだが、冬の凍結や乾燥に弱いらしく、春まで持ち越すことが難しい。稀に越冬できた株では、夏に花を咲かせてくれるのだが、翌年まで生き延びてくれる株は少なく、平地では簡単には増えてくれない。

この植物も『やはり野に置け蓮華草』の例外ではなさそうである。

2020年度ボランティア協会役員

役員会で以下役員が承認されました。

会長	小林 安寛
副会長	渚 和夫 平賀 謙治
	伊藤 英二
事務局長	沢崎 立雄
事務局員	伊藤 高明 上原 純
	鈴木 幸男(広報担当)
世話人	窪田 稲吉 小林 重治
	矢島 政夫 渚 成子
	平賀 美津江 西村 達男
	伊藤 エミ子 内藤 悦子
	鈴木 洋子 片岡 公夫
	大園 高明 片岡久美子
	大久保 市子
顧問	和田 典治 仲田 茂理
会計監査	五味 紘一



春の作業の
整備です。



初夏から夏は
ポポやヒメシ
根の深い植物





春の作業の
整備です。



初夏から夏は
ポポやヒメシ
根の深い植物

